

事後評価報告書(日本-インド研究交流)

1. 研究課題名:「グリッドコンピューティング環境による生体高分子複合体の認識メカニズム研究」

2. 研究代表者名:

2-1. 日本側研究代表者 :産業技術総合研究所 生命情報工学研究センター
研究センター長 浅井 潔

2-2. 相手側研究代表者:インド工科大学デリー校 化学・スーパーコンピューター専攻
教授 Jayaram B

3. 総合評価:(A)

4. 事後評価結果

(1)研究成果の評価について

情報通信技術と生命情報科学を融合させたバイオインフォマティクス研究を、グリッド環境を利用して遂行する実例を示した点は評価できる。また、両国がうまく連携し、日本側が大規模計算機資源を提供し、インド側の計算科学を専攻した人材と連携することで、効率よくデータ収集・生産が行われた。ただし、今回得られた成果が社会へ適用されるまでの道筋が提示されなかったのは残念である。

(2)交流成果の評価について

プロジェクト期間中に、日本、インドにおいて各1回ずつ日印バイオインフォマティクス・シンポジウムが実施された点は評価できる。また、世界中で活躍するインド人ネットワークを通して共同研究成果などの技術情報を世界中に発信できたことが認められるが、交流をさらに緊密にして、共著による原著論文、学会発表を増やすことが期待される。

(3)その他(研究体制、成果の発表、成果の展開等)

特許出願がないのが残念である。バイオインフォマティクス分野は、今後の国際競争において、海外出願も含め特許出願は重要と考えられる。